

略歴

- 牛山敏章
- 14 - 1次隊 エルサルバドル 数学教師
- 長野県箕輪工業高校（全日制）で数学教諭として8年間勤務の後、青年海外協力隊に現職参加。帰国後、同校定時制勤務。



国立アポパ高校概略

- 首都近郊のアポパ市にある、共学国立高校
- 昼間部、夜間部の2部、生徒数約1,800人
- 普通科、会計科、経営秘書科、看護科の4科
- 人気は高く、入試倍率は約5倍

アポパ高校の様子1



の様子2



任務

期待されていた任務

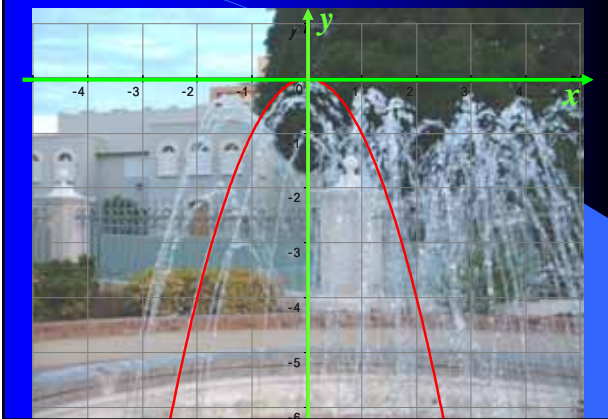
- 現場教員の再教育
- モデル授業の実施
- 教材の開発

実際の活動内容

- 数学全般に関する相談役(たまに理科も)
- 教材の開発
- 生徒への授業



コンピューターを使った教材開発



カウンターパートの授業

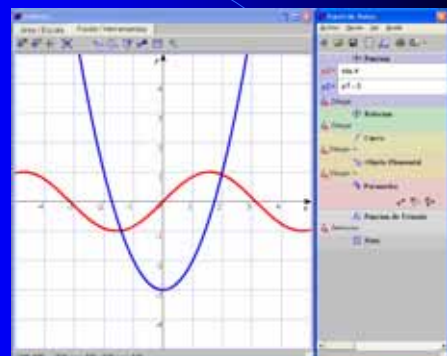


教員の研修



グラフ作成ソフトのスペイン語版作成

- 同期のパナマ数学教師隊員と共同で翻訳



その他の活動

アボパ高校で

- ギターレッスン
- 折り紙や日本食など、日本文化紹介

エルサルバドル隊員会として

- 孤児院訪問
- 日本文化紹介

現地の人との交流



事前準備

派遣国での仕事のために

- 日本で使った教材を持っていった
- インターネットが使えることは知っていた

現地に行って

•教員は意外としっかりしていた

- 学校運営など、授業のやり方などしっかりしていた
- 生徒との関係も良好。生徒達は先生達を尊敬している。先生も生徒達を信頼。



先生達が必要に思っていることを提供し、それをサポートする仕事をメインに。

心がけたこと

•語学(スペイン語)

言葉ができないと、認めてもらいづらい(現職、非現職関係なく)。

- スペイン語になるべく触れる。日本語に触れない。
- 現地の人の友達を増やす。行動を共にする。

•職場で

まずは相手のペースでものを考える

➢うまく行かないときは、結局自分に問題があったことが多かった。

現職教員として

•現地で

- 学校組織を知っていること
- “教師”の習性を知っていること
- 授業経験(教材のストック、開発、自信)

•日本から派遣されているという面で

- 現地にいながら、その経験を伝える
通信やホームページなど。また総合的学習の時間など(事前に話をつけておく)。学校の種類によるが。
- 帰国後の仕事に活かす

活動が終わって思うこと

行ってみなければわからないことが多い。

- 前任者がいれば、様子が聞ける。新規でも、現地事務所に聞いてみる。
- 資料や文献などを整理しておく(いざというときに送ってもらうため)
- ネット環境がどの程度か調べておく
- 現地の年度とのマッチングが、活動に大きく影響

現地の環境によらずできそうなこと

- 日本の学校の様子を伝える。教材の使用法など、実践の様子を写真やビデオで。
- 帰国後のためにも、写真やビデオで情報収集を。